



## FESTIVAL PROGRAMME

KOCA: A JAPAN-CANADA EXCHANGE  
Friday June 7, 2019  
8:00 PM at Waterfront Theatre

Featuring  
**Yaletown String Quartet**  
Mark Ferris - violin 1 | Tina Park - violin 2  
Tony Kastelic - viola | Finn Manniche - cello

**Paolo Bortolussi** - flute | **Mike Brown** - clarinet | **Morgan Zentner** - oboe  
**Saina Khaledi** - santur | **Bic Hoang** - dan bau/vocals | **Qiu Xia He** - pipa/vocals  
**Lan Tung** - erhu | **Michelle Panikkar** - percussion | **Angus Lam** - bass  
**Naomi Sato** - sho | **Harrie Starreveld** - shakuhachi | **Miyama McQueen-Tokita** - koto  
**Taishi Harada** - guest conductor | **Janna Salor** - guest conductor

Zwei Nachklaenge\*\* Keiko Eto  
Voice of Amphitrite\*\* Yujin Izaino  
Shen Wei\*\* Goushi H.K. Yonekura  
{Ryokuin}(Green Shade) ~ for shakuhachi bamboo flute & koto harp ~\* Yuko Kondo  
Kibi Story\*\* Takeshi Saitoh  
Iroha Fantasy\*\* Airi Yoshioka

\*Canadian Premiere  
\*\*World Premiere

KOCA PRESENTS: MUSIC FOR PIANO & VIOLIN  
Sunday June 9, 2019  
3:00 PM at Canadian Music Centre

Featuring  
**Saki Kono** - piano  
**Taishi Harada** - violin

Yukemuribjo Fantasy Mineaki Yoshida  
To Kaguya Princess Mineaki Yoshida  
Dream of Butterfly Airi Yoshioka  
Glittering Wave, Choral from "Eye Experience" Yuko Kondo  
Triptych for Piano Goushi Yonekura

INTERMISSION

Japanese Tree Blossoms: Sakura & Kimmokusei Keiko Eto  
i. Cherry Blossoms  
ii. Fragrant Orange Olive  
Variation on an Okinawa Folk Song\*\* Takeshi Saitoh  
Poru Chop Yujin Izaino

\*\*World premiere  
\*\*\*\*\*

**Taishi Harada (violin)** graduated from Tokyo University of the Arts, Faculty of Music, with a master's degree. After that, he served as a concertmaster of the Sapporo Symphony Orchestra and the Tokyo Chamber Orchestra. At the same time, he is active as a composer under the pseudonym Yujin Izaino, creating many works that have been performed in Japan, Korea, Hungary and Russia. Currently he is an associate professor at Fukuoka University of Education and a vice chairman of the Kyushu Okinawa Composers Association.

**Saki Kono (piano)** is from Fukuoka, Japan. She graduated from Fukuoka University of Education and the Liszt Academy in Hungary under the guidance of Prof. Balazs Szokolay. She has won various competition prizes, including the highest prize of the 21st Japan Classical Music Competition. She participates in many concerts in Japan, Hungary, and Finland not only as a soloist, but also as an accompanist.

## 九州・沖縄作曲家協会と Vancouver inter-cultural orchestra との交流~2nd stage

会長 吉田 峰明

カナダ・ヴァンクーバーを拠点に世界の民族楽器奏者と西洋楽器奏者を擁して活動している Vancouver inter-cultural orchestra (VICO) との交流は、2017年度中に、まずは3年間のプランとして計画された。その1年目となる2018年度は秋に福岡市にて行われた「第38回九州・沖縄現代音楽祭」であった。この時にはVICOから7名の演奏家、作曲家のリタ上田氏、音楽監督のM. Armanini氏が来訪・参画し、リタ上田氏のオペラが上演された。また佐伯市から約30名の小中学生を招待し、世界の民族楽器について特別授業(キッズプログラム)が行われ、さらに作曲家向けワークショップも行われた(詳細はJournal vol.5参照)。このワークショップに参加した会員作曲家がそこで得たことを活かして、交流2年目となる今年、ヴァンクーバーに赴いて新作を発表、併せて九州・沖縄作曲家協会(KOCA)による自主公演演奏会も開催した。

今年に入ると本格的な準備が始まった。各作曲家は作品についてVICO演奏家とスカイプによる確認作業等を行った。ヴァンクーバー在住の米倉会員にはVICOサイドとの様々な調整、渡航に際してのアドバイス、現地での宿舎確保などひとかたならぬ役割を担っていただいた。衛藤会員には外務省所管の助成金(国際交流基金)獲得に向けて細かな書類の整備や助成金担当者との厄介な調整を担っていただいた(結果、相当額の助成金を獲得)。吉岡会員には素敵なチラシ・プログラムを制作いただいた。原田会員には多くの作品で指揮・演奏と大活躍いただいた。VICOのMark氏には、会員入国に際して個別にInvitation cardを送っていただくなど協力いただいた。そしていよいよ6月、日本から私を含めた6会員が渡航、現地の米倉会員と合流し「GLOBAL SOUNDSCAPES FESTIVAL ~A Celebration of Japanese & Canadian Music~」(VICO主催5月31日~6月13日全8公演・写真左)に参加、2つの演奏会に臨んだ。

1つ目の演奏会「KOCA: A JAPAN-CANADA EXCHANGE」は6月7日(金)20:00~、Waterfront Theatre(ダウンタウンに並んでヴァンクーバーの文化・観光人気スポットGranville Islandにある)にて、民族楽器を取り入れた6会員(私以外)作品が演奏された(写真中)。2つ目の演奏会「KOCA PRESENTS: MUSIC FOR PIANO & VIOLIN」は6月9日(日)15:00~、Canadian Music Centre(ダウンタウン内)にて、私を含む7会員作品が河野早紀氏のピアノ、原田大志氏のヴァイオリンにより演奏された(写真右)。各演奏会後のレセプションではVICO演奏家・作曲家・関係者たちと交流した。また演奏会には在ヴァンクーバー日本国総領事館首席領事の多田雅代氏、ならびに専門調査委員の嘉田祥子氏も訪れた。

最終日にMark氏、リタ上田氏らと我々との間で今後の交流について話し合った。ここでの内容を受け、来年度の3rd stageをはじめ、この先協会が発展していけるよう前向きに検討していきたい。こうして参加した全員による協力体制のもと、カナダにおける交流演奏会、ならびに協会史上初となる海外自主公演を実現した。

## ヴァンクーバー・インターカルチュラル・オーケストラ(VICO)との交流演奏会を経て 吉岡 愛梨

6月7日、ヴァンクーバーの観光名所でもあるグランヴィルアイランドの中にあるホール、ウォーターフロントシアターにて『KOCA : A JAPAN-CANADA EXCHANGE』は開催されました。このコンサートに提出する作品には、「必ず民族楽器を入れた編成にすること」が大前提でした。

VICOは西洋楽器とアジアの民族楽器による混成アンサンブルです。そのVICOのために九州・沖縄作曲家協会の会員が作品を作り、VICOがその楽曲を演奏する、コンサートの冒頭でVICO音楽監督のマーク・アルマーニ二さんも仰っていた、まさに「音楽を通じたコミュニケーション」が目的とされたコンサートです。

昨年9月、マークさんとカナダ在住の日系カナダ人作曲家のリタ・ウエダさんとともに民族楽器奏者の方々が訪日し、それぞれの民族楽器をレクチャーして下さいました。ですが、奥の深い民族楽器のほんの入り口に立ただけの状態だということ、作曲に取り掛かって改めて痛感しました。何度も行われたスカイプセッションにて、熱心に私の言葉に耳を傾けてくださり、時には鋭い着眼点で曲の持つニュアンスがより一層際立つ音、奏法を提示して下さったこと、感謝してもし足りません。私は今回の曲に日本では馴染みの深い「いろはうた」を歌詞に使用した歌の部分を作ったのですが、歌をお願いした中国琵琶の演奏者とダンバウの演奏者の方には、ただでさえ難しいであろう異国の言葉の意味を、ニュアンスをご理解頂いて、とても大切に、情緒豊かに歌いながら演奏して頂いたこと、とても嬉しく思っております。カナダの演奏家の方々による作曲家協会会員の作品の演奏を初めて拝聴させて頂いたのですが、どの作品も作曲者、そして演奏家の個性、思想などが混ざり合い、とても色彩豊かな心に響く演奏会となったのではないかと感じている所存です。

6月9日にはカナディアン・ミュージック・センターで当協会初の海外での自主公演も実現しました。この演奏会の一番の功労者は、ピアニストの河野早紀さんと、作曲者として作品を出展しながらヴァイオリニストとして演奏を請け負ってくださった原田大志先生ではないかと思えます。作曲者の個性がいかに発揮されている音楽の持つ細かなニュアンスを大切に、どの曲にも全力で挑んで下さりました。まさにピアノとヴァイオリンの「魅せられる」演奏会でした。演奏会後にささやかながらレセプションも企画したので、ご来場の皆様に直接、演奏会のご感想を頂くことが出来たのですが、皆さまご満足頂ける演奏会となったようです。

演奏会の他にも意見交換会の場を設けて下さいました。その中で私が一番心に残っているのは、アメリカのモンタナ州北西部にて活動なさっているグレイシャー・シンフォニーの音楽監督兼指揮者のジョン・ソルテックさんが話して下さった内容です。人口5万人に満たない小さな町の中で一番大きな企業がこのグレイシャー・シンフォニーだということです。アマチュアではなく、セミプロとして活動しているとのこと。確かに日本と欧米では音楽に対する価値観が相容れないものがあるかもしれません。ですが、小さな町で音楽という分野がここまで人々の生活に寄り添っていることに対して、私は興味を惹かれてなりません。「地域社会に根ざした音楽の創造はいかにあるべきか」という私たち協会の掲げているテーマにもどこか似通ったものを感じてならないのです。

来年の秋には、今度はVICOの演奏家および作曲家の方々を日本に招いての演奏会です。せっきく拡がり、繋がった音楽の輪。「ここで終わる」のではなく「ここから始まる」のだと確信しております。異文化交流は一筋縄ではいきません。ゆっくりとお互いを知りながら交流を深めていくことが出来たら、これほどうれしいことはありません。

最後にこの場を借りて、海を越えて、国境を越えて、音楽の絆を結ぶことに尽力して下さった国際交流担当理事の米倉さん、『KOCA : A JAPAN-CANADA EXCHANGE』では指揮者として、自主公演ではヴァイオリニストとしてこの演奏会を成功に導いてくださった原田先生、またこの演奏会の成功に向けて尽力して下さった皆様へ感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

演奏会 1 回目「KOCA : A JAPAN-CANADA EXCHANGE」より





## 九州・沖縄作曲家協会カナダ公演に参加して 事務局長 衛藤 恵子

この度、皆様のご協力のもと、6月4日から11日までヴァンクーバーにて開催された VICO 音楽祭に参加させていただき感謝いたします。私は昨年10月から国際交流基金助成申請に携わってきましたが、お陰さまで助成を頂くことができました。ありがとうございました。これまで2004年の第2回東アジア国際音楽祭 in 宮崎で助成を受けたことがあり、毎回たくさんのごことを勉強させていただきました。

さて、ヴァンクーバーでのことを報告いたします。4日午前に着き、5日は VICO の方々との初めての練習でした。あわただしい時間の中での合わせでした。夜はオープニングコンサートでリタ上田さんの「Debris」室内オペラの世界初演を聴きました。昨年の福岡で発表された作品のシリーズ演目でした。たくさんの聴衆とその後のレセプションは大賑わいでした。6日は協会参加会員と VICO 幹部とのミーティングで、自己紹介を兼ねたこれからの展望について議論しました。夜は弦楽四重奏を主とする演奏会を聞きました。7日は GP と本番でした。演奏前の舞台上での作品解説がありました。8日は自主公演の練習でした。そして来年についてのミーティング。夜は日本から参加の福井とも子さん作曲「Serenade」の世界初演、VICO 会長 Armanini さん編曲の「Chidori No Kyoku」を聴きました。9日は自主公演の GP と本番で、その後、各地から持ち寄ったお土産を頂きながら、日本人のお客様、関係者の皆様と歓談いたしました。そして10日出発11日帰宅しました。忙しくも充実した毎日を過ごさせていただきました。FB で公開しております。

これまで本協会は韓国（テグ）、中国（上海）へ招聘され会員の派遣をしてまいりましたが、海外での自主公演は初めてでした。米倉国際担当理事の発案から3年後、大きな成果を残すことができました。米倉理事はじめ、皆様のご理解ご協力に感謝いたします。これからも会員一段となって、音楽を通していろんな方達と国際交流ができれば嬉しいと思います。



演奏会2回目「KOCA PRESENTS : MUSIC FOR PIANO & VIOLIN」より



## 九州・沖縄作曲家協会 VICO ヴァンクーバー公演に参加して

齊藤 武

昨年（2018）9月の VICO のワークショップ（中国琵琶のチュウシャさん、笙の佐藤さん）に参加して様々な民族楽器という組み合わせにとっても興味が沸き、その時与えられた楽器の組合せの中から、さらに中近東のサントゥール、中国の二胡と民族打楽器、西洋楽器（フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス）という組合せで作曲する構想を練りました。音楽学の先生に民族楽器辞典（写真入り）をお借りし、楽器に関する様々な想像を巡らすことは至福の時でした。それらをまとめて現代的な技法を織り交ぜながら、岡山に住居を変えてから様々な民謡を収集してきた中で、それらを活用して構成する着想を得て、吉備物語という曲を完成しました。VICO オーケストラに素晴らし演奏をしていただけてとても感激でした。また自主公演では、九州沖縄というイメージと南国の明るさ楽しさをカナダでも伝えられたらという考えもあり、沖縄民謡「ていんさぐぬ花」をテーマにヴァイオリンとピアノのための変奏曲を作りました。原田さんと河野さんが本番を楽しんで演奏してくれている表情が伝わってきてとても良かったです。今回同行させていただいた私以外の6名のメンバー全員に、ほんとうにいろいろなこととお世話になりながら、音楽祭全体の成功に寄与でき実現できたものと思っています。同志皆さんに深い感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

演奏会後のレセプションより

## § 会員活動の紹介 §

### 「不思議な出会い」～チェロとピアノのための～について

衛藤 恵子

私は、今まで多くの不思議な出会いをしてきた。それは音楽と多くの人達との出会いだ。

始まりは4歳くらいの時、父が東京からお土産に買って来た卓上ピアノとの出会いである。真赤な色、きれいに響くやさしい音が何よりも好きになり、毎日弾いていた。それが初めて自分が創り出す音楽であった。それから25歳までに多くの音楽教師と出会い、音楽の基礎を習った。何よりも彼らに感謝するのは、私を「音楽嫌い」にさせなかったことだ。そして26歳からウィーンで作曲や声楽を師事した先生達は、当時学生であった私を「作曲家」として人々に紹介してくださり、「歌手」として一緒に舞台上に立たせてくださった。そこでは本物の音楽を知る寛容な心を持つ作曲家、声楽家、音楽家達との出会いがあり、また毎日、演奏会、オペラに通え、なによりも超一流の芸術との出会いがあった。そしてその後も、私の人生に光を与えてくれた多くの音楽、たくさんの人々との出会い。。。



今はウィーン中央墓地の名誉音楽家の墓地に眠る、私の音楽の一番の理解者である作曲家、ピアニスト、Robert・Schollum先生と、ハンガリーでのリーダーアーバント、デビュー演奏会前に。本番では先生の伴奏に助けられた。30歳くらいの時。

9月21日初演予定の作品はドイツ語では「Wunderbare Begegnungen」で、素晴らしい出会いといった方がよいかもしれないが、私にとっては、音楽を今まで続けさせてくれる不思議な出会いなのかもしれない。音楽と人々との出会いに感謝する気持ちをこの曲で表現したい。チェロは、これまでの自分を表し、ピアノはその時のいろいろな種類の出会いを表し、それは不思議な出会いが素晴らしい出会いになり、後に「あれは今思えば不思議な出会いだった。」と思う心情を表したい。舞台上で歌を歌わなくなって2年、でもいつも思う。

曲が作れてよかった！自分のことを音にできる年齢にやっと達したことを嬉しく思う。

## § 今後の協会事業のご案内 §

### ♪ 第39回 九州・沖縄現代音楽祭 in 宮崎

2019年9月21日(土)14:30 宮崎市オルブライトホール

招聘作曲家：Dietmar Schermann

出品作曲家：石田匡志、衛藤恵子、金井玲香、熊本陵平、齊藤武、中園哲也、安川徹、吉岡愛梨、吉田峰明、米倉豪志

### ♪ Spring Concert (仮題・予定)

2020年春(未定)

### ♪ 第40回 九州・沖縄現代音楽祭 in 佐伯

2020年11月下旬の予定

## § 賛助会員募集中 §

九州・沖縄作曲家協会では会の趣旨に賛同し、所定の年会費を納める方(法人もしくは個人)を賛助会員として募集しています。年会費は法人会員一口10,000円、個人会員3,000円です。会員になると本会主催事業へのご招待、機関誌「ジャーナル」の受け取り、法人会員については本会主催事業プログラムに法人名掲載などの特典があります。詳しくは事務局にお問い合わせください。